

# 乾式ハイテムセコノブ

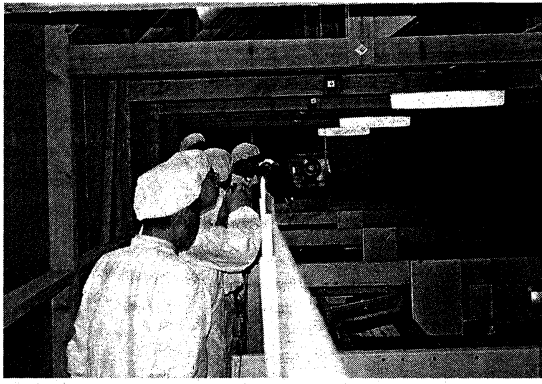
## 次世代ハイテムセコノブ 東洋システム 現地見学会

東洋システム(株)(安田) 勝彦社長・本社・岐阜県各務原市金鷲団地九七一四)は、八月八日に岐阜県下の農場で、次世代乾式システムの「ハイテムセコノブ」の現地見学会と説明会を開催した。

同農場のハイテムセコノブは、今年一月に完成

した六万羽のハイテムセコノブ八段新トネル換気鶏舎(棟二室)に隣接して建てられたもの。

鶏舎排気を利用した乾式システムのハイテムセコノブは、ウインドレスコノブからの最大時給排気量の約一〇%を導入し、



熱心に見学する全国各地からの参加者

などのコンピュータ内蔵の制御盤は、東洋システムによって国産化されたもので、操作は簡単。生産者を中心に全国各地から約五十人の参加者は、システム全体が順調に稼働している状況を確認していた。

見学会後の説明会では、農場側から、冬季外気温がマイナス一〇度Cを下回るような場合は、鶏舎内温度維持とセコノブへの送風量関係の調整に気を使うとの体験報告があり、この点について参加者からも質問された。

対策について東洋システムからは、①外気温がマイナス一〇度Cを下回る地域では、一万羽当たり二万羽相当のバックアップヒーターを、梅雨時に乾燥水分会を維持する(五〇%に維持)する。②この納入が内

生糞水分が何%であったも、二十四時間で水分一五〜二〇%に乾いた糞に仕上がるように設計されている。

同システムの特長は、①エアパイプに比べ糞乾電氣代が約三〇%下がる。②風乾で臭いが少なく、鶏舎排気が充てん糞糞層を通過するための除塵装置の役割も果たす③シンプルでコンパクトなシステムのため、故障する個所がほとんどなく、耐久性にも優れる。など。

また、乾糞循環などの同システムの運転をつか